

## メロン苗定植 高品質生産に力

[小千谷園芸組合]

JA越後おぢや管内のメロン農家らでつくる小千谷園芸組合は、4月下旬から5月上旬まで、小千谷市内の圃場で、メロン苗の定植作業を行いました。

7月中旬から8月上旬の収穫に合わせて行うもので、今年産の定植時期は平年通りです。

同園芸組合の永野敏行組長は2日間をかけて、同市山谷の圃場約10㍓にメロン苗を植え付けました。永野組長は「適期作業で、昨年以上に高品質なメロンを生産したい」と話します。定植したメロン苗は、現



▲メロン苗の定植作業をする永野組長

在順調な生育を見せています。

同組合では、生産者21人が、露地栽培296㍓とハウス栽培14㍓を合わせて310㍓でメロンを栽培しています。栽培する品種は「ユウカ」「タカミ」「マリアイシユ」「ボクの夏」の4品種です。

平成26年度の出荷実績は134トで、27年度は前年を上回る136トを目指します。今年は、新たに生産者2人の仲間が加わり、品質の良いメロンの生産拡大に期待がかかります。

## 杉並で小千谷の逸品を販売

[小千谷市農村都市交流協議会]



▶小千谷産の魚沼コシヒカリを買い求める来場者

5月24日(日)、小千谷市農村都市交流協議会は、杉並区の小千谷学生寮脇広場で、毎月恒例の小千谷フェアを開催しました。

同フェアには、小千谷の産地直送品や季節野菜など、小千谷の逸品が並び、買い求める多くの区民らでにぎわいました。来場者は各ブースをまわりながら、お目当ての品を買い求めていました。

## 硬化苗8万箱出荷

[JA育苗センター]



▶硬化苗の積み込み作業

両新田のJA育苗センターでは、5月10日(日)から硬化苗の出荷を始めました。初日は約2万箱を出荷。早朝から多くの生産者が訪れ、硬化苗を受け取りました。トラックに積み込まれた苗は各圃場へ運ばれ、市内各地で田植え作業が行われました。

今年度、同センターでは合計8万箱の硬化苗を出荷しました。

## 感謝の気持ちを込めて 千羽鶴

[JA女性部]



▲折り鶴を折るJA女性部員ら

JA女性部では、ミラノ国際博覧会（ミラノ万博）で展示する折り鶴の制作に取り組み、1000羽の折り鶴を完成させました。

この取り組みは、JAグループの「折り鶴プロジェクト」の一環。JA全中が呼び掛け、食べ物や食に携わるすべての人への感謝と、世界中の人々へ東日本大震災復興支援に対する感謝の気持ちを伝えることが目的です。



▲メッセージが書き込まれた折り鶴

JA女性部員が中心となり、専用の折り紙に「ありがとう」など感謝のメッセージを記入し、1羽ずつ心を込めて折りました。

折り鶴は、同万博日本館等でモニユメントとして展示・PRする他、7月11日のジャパンデーで実施される公式行事のパレードにて世界各国の来場者にプレゼントします。

ミラノ国際博覧会は「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマに、平成27年5月1日から10月31日まで、イタリア・ミラノで開催されます。

## グリーンパークに 佐藤吉一さんの絵画展示

▶作品を横に笑顔を見せる佐藤さん



5月18日(月)からグリーンパークで、当JA組合員の佐藤吉一さん(木津)の絵画を展示しています。

ひとつの絵を完成させるまでには約半年を費やす佐藤さん。展示作品は(写真右から)「耕して1日終わる」「古郷の五月」「春を待つ」の3点です。

グリーンパークにご来館の際は、ぜひご覧下さい。

## 市内小学校に補助教材寄贈

▶補助教材を手にする谷口組合長(左)と松井教育長(右)



5月21日(木)、市内の小學生に農業への理解を深めてもらうと、農業と食を基本テーマとした小学校高学年向けの補助教材約350冊を、市教育委員会を通じて市内の各小学校に寄贈しました。

谷口熊一組合長が市教育委員会を訪れ、松井周之輔教育長に補助教材の目録と10万円分の図書カードを手渡しました。



## 新入職員ら6人 市内圃場で農業体験研修



▲田植機に苗を運ぶ新入職員



▲手作業での田植えを体験する中学生と新入職員

当JAは5月13日（水）から1週間にわたり、JAの新入職員を対象に農業体験研修を行いました。

当JA管内の農事組合法人「うちがまき絆」と生産組合「アスカ冬井」の協力をいただき、4月に入組した新入職員ら計6人が2班に分かれ、それぞれ5日間ずつ参加。生産者と共に田植えなどの作業に取り組みました。

同研修は、農業経験のない新入職員らが、実際に農作業を体験することで、「農」A事業の基本である「農」

を知り、今後の仕事に生かすことが狙いです。

研修期間中には、東京都杉並区立向陽中学校の1年生98人が訪れ、田植えを体験しました。新入職員らは、生徒たちと共に田んぼへ入り、手作業で田植えをしました。

参加した片貝中央支店管理金融課の佐藤寿梨亜は「田植え作業は思っていた以上に大変だった。農家が苦労しているのが分かった」と話しました。

## 魚沼病院 ケアプランのお知らせ

### ケアプランの作成について

JA新潟厚生連

居宅介護支援事業所

管理者 杵 淵 英 子

魚沼病院居宅介護支援事業所です。現在当院では2名の介護支援専門員でケアプランの作成を行っています。

ケアプランって何か解りますか？ケアプランは、たとえ介護が必要な状態になったとしても、ご家族の協力や各種介護保険内外のサービスを利用しながら、その方にとっての自立とは何かを踏まえ、その人がその人らしく、持っている能力を生かしながら、住み慣れた「自宅で生活できるように」と立案する介護サービス計画です。

ケアプランはご本人・ご家族を中心に話し合いをしながら介護支援専門員が計画の原案をたてます。原案が完成したらご本人・ご家族・利用するサービス機関の職員の方も含め、各専門職の意見も聞きながら原案をもとに確認作業を行い、この計画で良いかどうか話し合いをして決定されます。そのケアプランをもとに各サービス機関が、サービス提供を行っていくこととなります。ケアプランは、自分のこれからの生活に関わってくる、介護における

サービスの基となる計画書です。福祉の専門職だからお任せではなく、ケアプランを立てる際には、ごどんな意見を伝え、疑問に思ったこと、ここはこうなってるの？と遠慮なくお話しください。より自分らしいプランができることと思います。

さて、ケアプランを作成してもらうには、介護保険認定を受ける必要があります。介護保険の認定を受けるための申請は、小千谷市役所の保健福祉課でできますが、魚沼病院福祉連携センター内でも可能です。介護保険のサービスは、必要な場合は認定結果を待たずに介護保険認定申請時から利用することが出来ます。ケアプラン作成のもと「デイサービスやショートステイなど、必要なサービスを利用することができるようになります。」「デイサービスを利用したいけど、どこを利用しようかなどサービス提供機関を選ぶ際にも、ぜひ介護支援専門員にご相談ください。」「各々の特色や特徴なども踏まえながらお伝え致します。また、今は予め連絡をすれば、ほとんどのサービス事業者さんは見学の受け入れを行っています。体験利用を行っているデイサービスもあります。サービスを利用する主役は「ご本人、そしてご家族です。お話を聞きながら、より自分に合ったケアプランとできるような、各サービス機関と連携を図りながら、お手伝いさせていただきます。」